

# 収入向上・女性自立

チボリの組合 COWHED 支援から、ビラーンの伝統継承と収入向上支援へ

## ビラーンの女性たち、COWHED を見学

去る8月、組合運営やハンディクラフト技術などを学ぶため、コロナダル市ボルール地区のビラーンの女性7名がCOWHEDを訪ねました。店舗内の色とりどりのビーズ細工や、ティナラク織バッグ、小物を手に取り、マネジャーのジェナリンの話の聞ききました。



ボルールの7名と、元マネージャー・ジェマさん（右端）、現マネージャー・ジェナリンさん（後姿）、PFP ビビアンさん（左端）

前86号P5でお伝えのように、私たちは、アグロフォレストリー事業を中心とするボルールの農村開発事業(NPO法人WE21みどり助成)に含める形で、価格低迷の竹串作りに代わるものとしてハンディクラフト生産を支援することにしました。現地窓口は、アグロフォレストリーと同様にPFPですが、女性対象の事業のため、女性スタッフ・ビビアンさんに指導を依頼しました。

その友人で元COWHEDマネージャー・ジェマさんも今回のレイクセブ訪問だけでなく、今後の活動への協力を約束してくれました。

ボルールにも20年ほど前までは伝統織の織手がいました。今回は織の技術よりも、比較的習得が早いビーズ細工から始めることになりました。それでも日本で売れる質の製品を作るには、時間が必要なようです。

### ティナラク織製品をお手元に！

— 製品紹介：眼鏡ケース（クッション入り） —

会報でいつもご案内のように、私たちは年間15回ほど首都圏でのイベントに参加して、現地のハンディクラフトを紹介・販売して収入向上を支えています。また、年20-30万円の収益を女性自立や給食支援などに充当しています。

この度、会員で縫製ボランティアの安井さんから端切れを活用した眼鏡ケースをたくさんお届けいただきました。遠方にお住まいの会員の皆様にもティナラク織の感触をお伝えしたいと思い、製品紹介をさせていただきます。



定型郵便でお届けできるサイズです。購入希望の方はご連絡ください。郵送代込 500 円でお分けします。  
(ご注文の品は、上段左から①～④、下段左から⑤～⑧の番号でお知らせください)

## ビラーンの伝統織継承者ソーニャさんを失って

3年前に支援したナバルタビ織研修ではアナベルさんとともに講師を務め、その後も私たちの注文に応じて、年2,3ロール（各5m）仕上げてくれたソーニャさんがこの9月に亡くなりました。まだ、教育費がかかる子どもがいる40代後半で、この1年、入退院を繰り返すなか、生活のために織り続けていたようです。

以前お伝えしたように、ソーニャさんの師匠のグサベンさんは、すでに高齢のうえ病気がちです。また、織の後継者に加わるはずだったナバルタビ研修の修了生ジュニリンさんも、夫の急死等の事情でNTP（ナバルタビ・プロダクション）から離脱してしまいました。アムグオ地区の織の家（10年前当団体松井基金で支援）で、ナバルタビ織りを続けているのは、アナベルさん一人になりました。

ソーニャさんの死は、家族のみならず、NTPにとっても喪失感は強く、担当のスヌーリアからは、「HANDSを通じて、日本の皆さんにお届けできた織の数々を思い出しています。これはソーニャさんの最高の織です」というメッセージとともに、右の写真が届きました。ティナラク織よりも細かい模様組み合わせで、日本では人気がありました。ご冥福をお祈りいたします。



## これからのナバルタビ織継承の支援

NTPはポロモロック町アムグオの「ビラーン民族学校」代表ノノバートさん、元HANDS奨学生スヌーリア（現村議）、この互いに従兄弟関係にある2名が、織を始めとするビラーンの文化消滅に危機感をもってアムグオに設立したものです。SCMヘルス担当Sr.セシリアがレイクセブ町で実施した「女性の健康と伝統を生かした収入向上研修」（オーストラリアの助成）修了生数十名を中心に、1995年に設立されたCOWHEDとは、設立の経緯や目的が異なります。NTPは、織や刺繍技能者数名の規模の小さい組織です。

ソーニャさんを失ったNTPは、近隣の村から、織の経験者2名を招くという再建案を考えていて、その経費は当面ノノバートさんとスヌーリアが負担するようです。一方、バッグなどに加工する縫製技術者育成には、技能国家試験TESDA挑戦中の縫製専門学校生に期待しており、ミシン1台（約2.5万円）の支援要請を受けました。今後のNTPを通じてのナバルタビ織継承支援については、次年度予算審議の際に検討できたらと思います。